

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
あわじ環境未来島特区 (兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市)	4.4	4.2 進捗度 ・エネルギー(電力)自給率 110% ・二酸化炭素排出量 130% ・再生可能エネルギー創出量 100% ・竹燃料の消費量 20% ・新規就農者数 91% ・再生利用が可能な荒廃農地面積 114% 等	4.2 規制の特例等 ・太陽光発電施設の系統連系に係る迅速な手続の明文化 等 財政支援等 ・玉ねぎの島淡路島のSDGs資源循環産業体系構築事業 等 地域独自の取組 ・住宅用太陽光発電システム設置費補助金 等	4.5	・淡路島を再生可能エネルギーの「テストアイランド」とする方向で様々な取り組みが行われ、これまで実績を積み重ねてきている。「エネルギー(電力)自給率」については、実績値、進捗度とも着実に上昇傾向にある。また、「二酸化炭素排出量」についても同様であり、いずれも望ましい状況で推移している。「再生可能エネルギー創出量」は、昨年度に初めて進捗度100%を切ったが、実績値が引き続き上昇する中で、進捗度もほぼ100%に回復した。 ・野菜残渣等の廃棄物をバイオマス資源として位置づけたエネルギー利用、荒廃地に繁茂する竹林対策としての竹チップのエネルギー利用で実績があることが期待される。後者については他に優良事例があれば、そこに学ぶことを考えてもよいかもしれない。 ・R3年度の新規就農者、耕作放棄地、一戸あたりの農業生産額については改善が見られる。新型コロナ下の社会情勢によるところに依存しているところもあるが、特にこれまでも困難であった新規就農者が増加したことは評価できる。 ・農業生産額(農協の野菜販売高)は、大幅に増加したが、タマネギ価格の高騰の影響も大きいだろう。相場の変動に影響されない、着実な経営成長が望まれる。農業生産額(農協の野菜販売高)は、大幅に増加したが、タマネギ価格の高騰の影響も大きいだろう。相場の変動に影響されない、着実な経営成長が望まれる。また、当該地域で力を入れている新規参入者は、農協出荷割合が必ずしも高くないため、新規参入者の経営状況も同様に販売高が増加しているかは不明である。 ・持続人口が伸び悩んでいる。またR2年度以来、観光などが難しい状況が続いているのはやむを得ないところではあるが、アフターコロナを見据えた準備を進め、次のステップに期待したい。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
森里海連環高津川流域 ふるさと構想特区 (益田地区広域市町村圏事務組合)	3.5	3.7 <u>進捗度</u> ・路網整備と計画的施業の推進 84% ・地域資源を活用した農村定住 ・交流促進 55% ・高津川流域の水質浄化及び川と海の水産資源の維持・増殖 101%	3.3 <u>規制の特例等</u> ・地域限定特例通訳案内士育成等事業 ・特定農業者による特定酒類の製造事業等 <u>地域独自の取組</u> ・壊れない作業路網整備事業 ・森林資源活用事業等	3.5	・「原木生産量」については、令和2年度よりも減少したが、実績値はほぼ維持されている。「乾燥材出荷量」は、引き続き進捗率が100%未満ではあるが、年々低下傾向にあった実績値が伸び、この数年の最高を示しており、望ましい結果となっている。 ・森林の活用では、路網の整備を進めるだけでなく、製材等に仕向けることが難しい木材を地域内で活用する方法を考える必要があるかもしれない。木質バイオマスを活用した再生エネルギー施設の建設と地域への熱や電力の供給は1つの方法ではないだろうか。自治体が積極的な投資主体となることも考えてはどうか。 ・「新規就農者数」は、引き続き進捗率が100%未満であるものの、実績値は連続で増加し、望ましい結果となっている。自己評価では「コロナ禍の状況にもかかわらず」とあるが、逆に「コロナ禍の状況だからこそ」という側面がなかったか、もう少し深い分析が求められるのではないかと。 ・「特定農業者による特定酒類の製造事業」を活用したワイン事業者は、順調で、これをロールモデルとした就農者がいるとのことで、今後の展開が期待される、優良な樹園地の紹介に行政や農業委員会と連携して取り組みたい。 ・規制緩和された地域限定特例通訳案内士の活動回数は、新型コロナのない令和元年度までは大きく目標を上回っていたが、新型コロナ発生後は逆に大きく下回っている。しかしながら、この事実だけでも十分にこの地域にポテンシャルのあることを示しているため、ウィズコロナ／アフターコロナに怠りなく備えて次の状態に期待したい。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
千年の草原の継承と創造的活用総合特区 (阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町)	3.5	進捗度 ・草原管理面積、野焼き再開牧野数 149% ・牛馬の放牧頭数 《定性的評価》 ・観光入り込み総数、阿蘇地域の宿泊客数 《定性的評価》 ・あか牛肉料理認定店数 67% ・草原体験利用者数 《定性的評価》	財政支援等 ・生物多様性保全推進交付金事業 地域独自の取組 ・ASO環境共生基金事業 ・入湯税込観光活用事業 等	3.5	・「草原管理面積」については、いったん令和2年度には実績値が減少したが、3年度は回復傾向が見られ、望ましい状況になっている。「野焼き再開牧野(組合)数」については、高齢化が進む中で大変な取組だと思われるが、にもかかわらず、引き続き1組合増加しているのは望ましい。 ・牛や馬の放牧を評価指標として取り入れたのは評価することができる。この放牧が経営的にどのようにプラスに働くのかについて、農業部局の協力を得ながら実証してはどうか。飼料価格が高騰していることもあり、経営的な裏付けが取れば放牧は広がる可能性があるかもしれない。 ・観光客・宿泊者数などは、R2年度のデータではあるが目標を大幅に下回っており新型コロナの影響の大きさがわかる。R3年度も同様の傾向が続いているものと考えらるが、R4年度からは、新型コロナの流行はあるものの行動制限がない分、観光客・宿泊客の回復が見込まれる。R3年度については、観光分野はどうしても縮小はやむを得ない。 ・一方で、「草原体験利用者数」は、ほぼ同水準の実績が維持されており、コロナ禍の影響についての分析が、ほとんど見られない。逆にどのような背景だったのか、もっと深い分析があってもよいのではないか。 ・指標は1年遅れてしか把握できず、コロナ禍の影響がもっとも出た年度であり、評価が難しい。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
競争力と持続力を持つ交流6次化モデルの構築特区 (山梨県南アルプス市)	3.4	進捗度 ・耕作放棄面積 83% ・農業従事者 101% ・農業所得 101% ・市人口社会増減数 480% ・観光入込客数 65% ・地域資源を活用する民間企業の誘致数 33%	地域独自の取組 ・雇用創出奨励金事業 ・南アルプスブランド戦略事業 ・農業次世代人材投資事業 ・中高年の新規就農者支援事業 ・若者世帯新築支援事業 等	3.5	・「耕作放棄地面積」は増加傾向にあり、耕作放棄抑止の対策が必要である。ただし、総量が多いので、やはり耕作放棄地をカテゴライズし、復旧の必要性の有無や緊急性などを峻別した上で対策をとることが必要と思われる。 ・農業従事者が増加に転じているのは高く評価ができるが、これは就農者の増加(7名)以外の人数が多い。その要因について、今後、分析する必要であろう。 ・農業産出額と農業所得が大きく伸びているが、その要因についての分析を行う必要がある。それを行うことで今後も農業が成長する余地がどれくらいあるのか、そのために求められる支援は何かを明らかにすることができるのではないかと考える。 ・「市人口社会増減人数」については、社会減を徐々に減らす目標を立てているのに対し、既に社会増を実現し、しかも年々増加傾向にあり、その傾向は顕著である。評価書中には、県内移動によるものとネガティブな評価になっているが、若者の進学による県外移動→その後の県内就職→婚姻の際に子育て環境のよさを求めて県内から移動、といった流れであれば、むしろ望ましい動向とも言える。世代や家族形態なども踏まえたより深い分析が必要ではないか。 ・新型コロナによる経済の縮小は一時的な外生的なショックで、これからが正念場となるだろう。農や食を含めた地域資源を自分に利用することを考えてこれから運用される南アルプス市らしい6次化モデルに期待したい。